

I 本校のテーマ

生き生きと学び合い伝え合う子の育成
～主体的に考え、表現する力を高める学習指導の工夫～

II 実践

1 単元名 わたしの町 大すき ～大すきわが町アピール隊～

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容「(3) 地域と生活、(4) 公共物や公共施設の利用、(5) 季節の変化と生活」に関する内容である。子どもたちが、地域の自然や施設、人々との出会いの中からさまざまな気付きや疑問を持ち、そのことを追究し深めていく活動の中で、自分と地域とのかかわりを振り返ることのできる単元である。子どもたちは、出会いがあると、そのことについて詳しく知ろうとする。また、具体的な活動の中から自然や社会とのかかわりに関心を持ち、そこから自分の暮らしについて考え、多くのことを学んでいく。東小沢小には、施設や高速道路のインターンがあり、2年生児童の家でもいろいろな施設に働きに出ている。子どもたちも東小沢小に関心があり、東小沢小について詳しく学習することで、ふるさと東小沢小のすばらしさをより感じるようになることを考える。町探検や地域に生きる方から学ぶことで、観察から感受へと深化する学び方を子どもたちに身に付けさせるとともに、自分の町の良さに気付き、その町で暮らしていく意欲と喜びを持たせることのできる単元でもある。さらに、町探検を通して、児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育の視点に立って、自分たちの生活をよりよくしていくことを考えさせることもできる。

- 本学級の児童は、1学期末に実施した生活科アンケートの結果で全員が生活科の学習が「すごくたのしい」、「たのしい」と回答している。その主な理由として、活動内容の栽培活動や生き物探し、町探検をして、ふしぎ（はてな・びっくり）をたくさん見つけることができるようになったと回答している。

1学期に行なった「東小沢小のひみつたんけん」では、自分が体験したことや知っていることから気付きや疑問を持ちながら意欲的に学習に取り組むことができ、「花がいっぱい咲いているよ。」「おたまじゃくしがいっぱいだよ。」「歩道に楽しい絵がかいてあったよ。」などさまざまな気付きを持つことができた。

これらのことから児童は、体験を通して東小沢小の良さや東小沢小の暮らしを支えている人々の良さに気付きつつある。しかし、気付きを交流し練り合い、さらに深めていくことや気付きを工夫してまとめ、分かりやすく表現するまでには至っていない。

- 指導にあたっては、児童が東小沢小で暮らしていく意欲と喜びを持たせていくためにも、東小沢小の良さやそこに暮らす人の思いを大切にしていける単元構成をし、次の三つの手立てを中心にして、児童の気付きの質を高めていく。

一つ目は、児童が驚きや疑問を見つけ、活動を発展的に繰り返していけるように町探検や町で働く人へのインタビュー活動、アピール活動といった体験活動を意図的に仕組んでいく。

二つ目は、交流や練り合いの場を学習活動の中に設定し、気付きをワークシートに書かせることで、気付きの変容、高まりを自覚させるようにしていく。

三つ目は、交流や練り合いの場において、気付きがさらに深まるように指導者からの効果的な言葉かけをしていく。特に本時では、東小沢小のすてきなところをアピールする活動を仕組み、

「どんなところが分かりやすいアピールだったかな?」、「どうすればもっと分かりやすいアピールになるかな?」、「これで多くの人に伝わるかな?」等、ゆさぶる言葉かけをすることで、気付きを深めさせながら東小沢小の良さに気付きさせていく。また、児童の言葉で考えを表現し深めさせていくためにも、国語科の指導との関連を図り、発表の場での話し方（「～が～だから良かった。」「～だから～を直したらいい。」など）や友だちの考えと比べさせることを大切にしていく。

単元のゴール（学習発表会「大すきわが町、アピール隊!!」）や本時のねらいを児童に明確にしていくことで、児童が見通しを持って学習に取り組めるようにしていく。さらに本時のねらいに即した振り返りをさせ、ワークシートや振り返りなどをファイルにとじ、学習の足跡を教室内に掲示していくことで、児童自身がいつでも自分の活動を振り返られるようにしていく。

3 単元構想図（全 38 時間）

「大すきわが町 アピール隊！！」（学習発表会）（1 時間）

東小沢小のすてきなところやひみつを紹介しよう！！

「大すきわが町アピール隊」（14 時間）

- ・ 2 回目の町探検での気づきや疑問を振り返り、町探検の計画と準備をする。
- ・ 町探検に行き、地域の人にインタビューする活動を通して町の人々の営みの様子についてさまざまな発見や気づきを持つ。
- ・ 東小沢小の良いところやひみつをマップや文などで表現しアピールする。
- ・ お世話になった人にお礼のお手紙を暮く。

「東小沢小のよいところを知らせよう」（6 時間）

探検して発見したことや気付いたこと、町の良いところを工夫してまとめ、分かりやすく表現する。

「東小沢小の名人を見つけよう」（9 時間）

- ・ 1 回目の町探検での気づきや疑問を振り返り 2 回目の町探検の計画と準備をする。
- ・ 町探検に行き地域の人にインタビューする活動を通して町の人々の営みの様子についてさまざまな発見や気づきを持つ。
- ・ 発見したことや気づきをマップや文などで表現する。

「東小沢小のひみつたんけん」（5 時間）

- ・ 町探検の計画と準備をする。
- ・ 町探検に行き、地域の自然や人々、お店の様子についてさまざまな気づきや疑問を持つ。
- ・ 気づきや疑問をマップや文などで表現する。

「東小沢小のじまん」（4 時間）

- ・ 学校の周りの自然を見つけ紹介し合う。
- ・ 東小沢小のじまんを紹介し合う。
- ・ 自分たちでさらに調べたいことや調べる方法を考える。

4 大単元の目標

- 東小沢小のまわりを探検し、繰り返し調べる活動の中で、町の特徴や良さ、季節による自然の変化、そこに暮らしたり働いたりする人々の様子や工夫などに気付く。
- 友だちといっしょに町探検に行き、発見したことや体験したことなどをマップや文などにまとめて、まわりの人に伝える。
- 町を友だちと協力して繰り返し調べたり、探検したりする活動を通して、自分が住む東小沢小の自然やそこで暮らす人々などとかかわり、町での自分の生活を広げることができる。

5 小単元の目標

- 探検で発見した気づきを工夫してまとめ、アピールができるようにする。
- 探検やインタビュー活動、アピール活動などを通して、町の良さや町の人々の営みの様子に気付くことができるようにする。

6 小単元の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
① 町探検の計画を立て、準備をしようとしている。	① 自分が知りたいことを調べたり、インタビューしたりすることができる。	① 町の良さや人々の営みの様子に気付く。
② 町探検で気付いたことを相手を意識して分かりやすくアピールしようとしている。	② 町探検で気付いたことを工夫して伝える方法を考え、表現することができる。	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- 東小沢小の町のすてきなところやひみつのアピールをして、良いところや見直しをしたらいところを交流をし、考えをまとめることができる。

(2) 評価規準

- アピールや話し合い活動を通して、良いところや見直しをしたらいところをまとめることができる。
(活動や体験についての思考・表現)

(3) 準備物

- ・ わたしの町、大すきマップ ・ アイデアカード ・ 振り返りプリント

(4) 学習の展開

学 習 活 動 (気付きを高めるための言葉かけ◎) (予想される児童の反応●)	指 導 上 の 留 意 事 項	評価規準	評価方法
1 前時の学習を想起する。	「わたしの町、大すきマップ」を使い、東小沢小の町すてきなところやひみつについて学習発表会でアピールする準備をしていることを確認する。		
2 本時のめあてをつかむ。 学習発表会でみんながおどろくようなアピールにするアイデアをどんどん出そう。			
3 東小沢小の町すてきなところやひみつのアピールをして、良いところやもっとみんなが驚くようにするアイデアを交流する。	・ 3グループに発表をさせ、良いところやもっとみんなが驚くようにするアイデアを交流させる。 ・ アピールするグループは、音声言語を使ってアピールさせる。 ・ アピールを聞く観点（良いところや驚いたこと、アピール資料はどうか、アピールの方法はどうか、もっと詳しく説明したらいいところはあるか）を知らせてから聞かせる。 ・ アイデアカードに良いところや驚いたこと（桃色）、直したらいいところ（水色）を書かせ、児童一人一人が意見を言えるように個別に支援をする。	○ アピールや話し合い活動を通し発言で、良いところや見直しをしたらいところを考えてまとめることができる。	アイデアカード 発言
◎ 良いところはどこかな？（びっくりしたところはどこかな？） ◎ どんなところが分かりやすいアピールだったかな？ ● クイズにしていたから～のひみつを楽しく聞くことができた。 ● 写真や絵を使っていたから～がよく分かって良かった。 ● ～を詳しく言っているのが良かった。 ◎ 直したらいいところはどこかな？（疑問はあるかな？） ◎ どうすれば分かりやすいアピールになるかな？ ● ～を詳しく説明したらいい。 ● ～の味やにおいのことを言ったらいい。 ◎ どうしたらいいかな？ ● ～を詳しく言ったらいい。 ● 絵や写真を使えばいい。 ● 味やにおいのことも言ったらいい。 ◎ どうしてそう思うのかな？ ◎ みんなどう思う？ ● ～は東小沢小の良いところ（ひみつ）だから詳しく言ったらいい。 ◎ 楽しいアピールになりそうだね。			
	・ 友だちの考えと比べさせながら交流させる。また、交流させることで東		

4 本時の振り返りをする。 5 次時の活動を考える。	小沢小のすてきなところを深めさせ、学習発表会でのアピールに意欲を持たせる。 ・「～が～だから良かった。」、「～だから～なアイデアがいい。」など目的を意識させた交流をさせる。 ・指導者からも「どんなところが分かりやすいアピールだったかな?」、「どうすればもっとみんなが驚くアピールになるかな?」、「本当にこれでいいかな?」等、ゆさぶりをかけることで本時の目標に迫らせる。 ・本時のめあてを自己評価させ、振り返りを書かせる。 ・アピールの見直しをどのようにしていくかを考えさせ、次時への意欲を持たせる。	
	◎ 次の時間にみんなは、どんなことをすればいいかな? ● もう一度、調べたい。 ● もう一度、詳しい人に聞いてみたい。 ● アピールをもっと詳しくしたい。 ● アピールに使う道具を作り直したい。	

8 課題

- ・ 町探検から、さらに知りたいことを見付け、気付きを深める手立てについては、単なる活動に終始しないように、単元における学習の目標を明確にし、ねらいにせまるために条件をつけた学習になるようにする。

「東小沢小の町を探検し、おもしろいと思ったものを見つけよう。」という投げかけだけでは、限られた授業時数内に、なかなか教師の意図しているねらいに近づかない。今回のアンケート調査で、探検がおもしろくなかったと答えた子供たちは、探検で町に行くごとに興味が変わり、自分の調べてみたい店も変わり、気付きが深まっていかなかったという反省があった。

そこで、町探検に入る前に、ねらいに達成できるよう、「すごいと思ったお店を一つ選んでインタビューをしよう。」「すごいと思ったものには、必ず、証拠をとってこよう。」などというように、活動に何らかの条件を与えて活動させる必要がある。

- ・ 知的な気付きの想定については、単元における知的な気付きを具体的に設定していくこと、また、子供の学習の状況を把握した上での柔軟に見直しを行いながら、気づきの方法を変えていく必要がある。

単元における学級全体の課題である「東小沢小の町のすごさ」について、具体的に店ごとにどのようなことに気付いていけばよいのかを子供の気付きを追いながら、設定していくことが大事である。今回の実践では、それぞれの子供が何に気付いていけばよいのかを具体的に分類した。しかし、どこまでを生活科としてねらうのかなど、店ごとにその気付きの質に違いがでてしまい、設定するのが非常に難しかった。

今回の実践での気付きを次回からの実践に生かし、あらかじめ、どのあたりまでをねらうのか子供の具体的な知的な気付きを想定したい。

- ・ 発表する場を設け、気付きの自覚化、知りたいことの明確化を促す手立てについては、効果的な話し合いの場の工夫が必要である。

子供の生活とは直接離れている町において、どのように、子供たちの思いをふくらませるのが学習を組むときの大事な点となる。そのため、話し合いの場において、学級全体で「東小沢小の町のすごいところを見つける」ときの「すごさ」とは、具体的に何なのか、子供と条件を設定し、学級全体共通の目標とすることで、単元のねらいに迫ることができ、子供の思いを育てることもつながっていく。

また、発表をさせる際に、単なる見つけたもの、驚いたこと、もっと知りたいことなどを色ごとに分けるなどして、気付きを深める萌芽的な気付きを教師がみとる場面を工夫することが大事である。

